

第1回北九州市食育推進懇話会 議事録

1. 開催日時

令和5年4月21日(金) 18:30~20:00

2. 会場

北九州市役所3階 大集会室

3. 出席者

(1) 構成員

◎天本構成員、河野構成員、木下構成員、木村構成員、黒田構成員、田中構成員、中尾構成員、○長尾構成員、永津構成員、西村構成員、馬場構成員、林構成員、原田構成員、藤崎構成員、松井構成員、安木構成員、山下構成員

(50音順・敬称略、◎:座長、○:副座長)

(2) 行政

(事務局)保健福祉局、子ども家庭局、産業経済局、教育委員会

4. 次第

(1) 開会

(2) 構成員紹介

(3) 保健福祉局長挨拶

(4) 市幹部職員紹介

(5) 座長・副座長の選出

(6) 議題

① 令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査結果について

② 第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況について

③ 次期北九州市食育推進計画について

(7) 閉会

5. 議事

(1) 開会

事務局 開会のあいさつ

(2) 構成員挨拶

(3) 保健福祉局長挨拶

(4) 市幹部職員紹介

(5) 座長・副座長の選出

(6)議題①令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査結果について

事務局（資料を用いて説明）

座長

今、令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査の結果について事務局より説明がございましたが、ご質問等ございませんでしょうか。よろしいですか。また、次に指標の達成状況を説明がございますので、そのあとで構成員の皆様からご意見を頂戴することがございます。ご質問が無ければ、次の議題に進ませていただきたいと思います。

では、議題2 第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況について、事務局よりご説明をお願いします。

議題②第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況について

事務局（資料を用いて説明）

座長

指標の達成状況について、ただいま、事務局よりご説明がございましたが、構成員より何かご意見やご質問はありませんでしょうか。

河野構成員

わからないので教えていただきたいのですが、食生活改善推進員の方々が実際活動されている内容をご説明していただければと思います。

長尾構成員

食生活改善推進員で取り組んでいる活動の内容ということでよろしいのでしょうか。私達は地域の食を通した健康づくりということで、年代別に考えてみますと、高齢者では「ふれあい昼食交流会」を各市民センターで行っているところです。

それとあと、「健康料理普及講習会」では、基本的には減塩を中心とした食生活の進め方、食習慣の進め方ということで取り組んでいるということが基本になると思います。

それとあと、事業名をずっと挙げていくと、いろいろたくさんあるのですが、「おやこの食育教室」「男性のための料理教室」、世代ごとに、みている事業としては、例えば、働く世代に対しては、職場とかそういうところ所に行つての食育事業ですね。

それから、若者世代としては、大学生、高校生を対象としての食育の活動、講話と調理実習を抱き合わせのようにしているのですが、先ほどの資料6にあるのですが、調理実習を一緒にしておりましたので、コロナの時期は、ほとんど出来ませんでした。コロナの中でも何かできることはないかと始めたのが家庭訪問をして食育のお話をきめ細かくしていくということ、少し取り組んだところでした。あとは、「親子で進める食育教室」とか、市のいろいろな委託事業と一緒に取り組んでいるところもあります。あと、他の団体とも、いろいろ繋がりがらしている事業もあります。あまりうまく話せませんでした。年代、性別関係なく、幅広い方

達に食習慣を身に付けていただくということが、一番大切ではないのかと考えています。特に生活習慣病予防のための減塩ということに対しては、本当に真剣に毎回取り組んでいくと考えているところでございます。よろしいでしょうか。

座長

ただいま、長尾構成員から説明がございましたが、食生活改善推進員の活動というのは、幅広くて、ライフステージも子供から高齢者に渡ってされております。特に有名なのは、30年間ずっと活動されております、高齢者のふれあい昼食交流会活動。ただコロナ禍に入りまして、高齢者がふれあう機会が減りまして、今回の結果に出ているように、「食生活改善推進員が取り組む活動への参加者の増加」というのは、悪い結果「D評価」という結果になっています。ただ、コロナも5月には5類に引き下げがありますので、随分活動も再開されるのではと思っておりますので、その点に関しては、より一層いろいろと交流を深めて食生活改善推進員が中心となって、北九州市の食育に取り組んでいただきたいと思っております。

他に構成員の方々からご意見がございませんでしょうか。

原田構成員

今のお話の中で、いろいろなことをやられているということがわかったのですが、そういう行事に参加された方の評価というとおかしいですが、そういうのが全然出てきていないので、何かそういう方々が、「今日はこういうことがあったからよかったよ。」というようなことはあるのですか。

長尾構成員

私達、食生活改善推進員は「ヘルスメイト」というニックネームでしているのですが、その方、それとも事業に参加された方たちでしょうか？

原田構成員

参加された方のご意見です。

長尾構成員

例えば、ふれあい昼食交流会では各市民センターで大体30名前後でしょうか、高齢者の方が参加される、月に1回ですね。その時に私たちも一緒に「交流会」ですので、一緒に参加して会食をします。その時に、「今日は、これがおいしく食べられる」とか、減塩をしていますので、味が薄めのものとしっかり味がついているものとか、メニューによっていろいろありますけれども、食に関しての会話、それができているのが良いかなと思っています。特にふれあい昼食交流会は会食だけでなく、参加している人の間、それから私達の間で交流することで、何というか元気を分かち合えるというか、それが地域社会に参加する喜びみたいなものに繋がっているような。今、マスクをしていますけれど、それで去年くらいから、始まった(再開した)のですが、ふれあい昼食交流会もガードをしてですね、皆さんと(感染症を)予防しながらや

っているところが、今でも続いておりますが、食べる時だけ、ちょっと(マスクを)はずして黙食で食べて、またパッとマスクして、でもそれでもだんだん最初はマスクをしていると参加している人の声ですが、「マスクをしていると誰だか分らなかった」という声が、だんだん目で語れるようになったようなお話を1年、2年経っていく中で聞いているところを見ると、本当に1つの場所に集まって、お互いに心の交流をするという事がとっても大事なんだな。そこに「食」というものが媒体になって交流できるということが、とってもいいことだなと思います。それとお互いに何を食べているのかというのが、気になるというか「元気している」「何食べている」そういう会話が進みますので、とてもそういう意味では食を通しての交流というのは、とてもいいことでないかなと感じています。答えになっていますでしょうか。

座長

ありがとうございました。他にご意見、質問等ございませんでしょうか。

第4次の北九州市の食育計画を進めていく中で、この資料3をご覧になっていただいて、この指標の達成状況を見ていただいて、これを見てご意見をいただきたいなと思います。進めていくにあたり、現状だとか、これから先のアプローチ法だとかそういうご意見とかアドバイスがいただけたらと思いますので、お願いいたします。まず、資料3の一番上の「朝食」、に関してなのですが、子どもたち、幼児期から小学生、中学生と「ほとんど食べない」という子供たちはあまりいない、90%を超えていますが、評価は「C」と出ています。ただ、20代30代の男性達が有意に朝食の摂取が低下しているということで、「D評価」が出ているのですが、まず、小児期における朝食の重要性というのは言われていますが、現状を保育所連盟の黒田構成員、幼稚園連盟の木村構成員にいただきたいのですが、現状と今、食育活動をされているのであれば、朝食に関してアドバイスを頂けたらと思います。

黒田構成員

保育園の場合ですね。コロナがあったのでお母さま方が園舎の中に3年間入れなくて、朝夕の立ち話の中でしかお話ができていないので、あまりよく聞きとれてはないのですが、食べない家庭は、食べない。親御さんも食べないし、子どもさんを起こして、まだ眠くてぐずっているお子さんをそのまま車の中で口の中に(食べ物を)突っ込んで食べさせたりとか。という家庭と、しっかりよく考えて食べさせて、(保育所に)こられる家庭と。その家庭の働き具合とかの状況によって変わるような気がしますけど。親御さん自体が「私達、食べない主義なので」という感じで、4~5歳ぐらいになると食べない。赤ちゃんの時は食べさせているが、4~5歳では食べないお子さんが若干増えるような感じがあります。

木村構成員

幼稚園の方もやはりコロナの関係で保護者の方々が中々園に入ってくる機会が少ないので、私達教員としては、子どもに時々朝、ぐずぐず機嫌が悪い時は、「朝何食べてきた」「力がでないの」とちょっと聞くとわりとパン、手軽な菓子パンみたいな「パン食べてきた」という子が結構多い。中には「ちゃんにご飯を食べてきた」という子がいるのですが、年々パン、簡単にコ

ーンフレークみたいなものとかの話がでるんですね。あと、夕飯に関してはよくわからないのですが、時々聞くのが、すごくうれしそうに「今日は夕飯、マックいくんだ」というのを聞く時に、私の年代としては、夕飯マックはあまりありえなかったもので、びっくりするのですが、子どもはすごくうれしそうに「ポテトとマック食べる」と言って、食生活が私達の意識と全然違っているし、お母さま方も幼稚園にしてもやはりお仕事持たれているお母さんが増えているので、6時までお仕事して迎えに来て、今からもう「さっさとごはん食べてさっさと寝せない」と思うとついつい時間が。割と好きなのがカレー、カレーを作って3日カレーとか聞くので、そういう点が何となく、やはり食事にかかる時間が少なくなってきているのではないかなと思います。

座長

ありがとうございました。乳幼児期に関しましては、まずは朝食を食べることが大事なんです。今、構成員がおっしゃってくださいましたが、おそらく内容を聞くと「食べている」という回答が出て、ただそのあとに菓子パンだとか「バランスよく朝食を食べている」に至っていない子どもたちもいっぱいいるんだと思います。食育をしていく上では、まず食べていないお子さんには食べさせること、食べているお子さんたちはどういったものをバランスよく食べているのかなというところまでもっていかないといけないと思います。幼児期から大事だと思いますので、そこを含めて、朝食を摂取している者の割合だけではなくて、中身まで北九州市としてアドバイスできるようになればなと思います。

西村構成員

少し感想になってしまうのですが、この実態報告を管理栄養士としての立場よりもすごく一北九州市民として興味深く拝見したのですが、50 頁の朝食を食べない理由で、未就学児と小学生で、私は、「眠っていたい」とか「食べる時間がない」というのが上位を占めると思っていました。が、「食欲がない」というのが一番高いというのがすごく驚いたんです。私小学生の息子がいるのですが、それこそ今日、朝おにぎりのみそ汁をしたら、前の日まで今日も元気で昨日もしっかり夕食も食べているので、「食欲がないのでおにぎり 1 個でいい」と言うんですね。やはり食欲がないという理由を今考えていると、寝る時間が遅い日は、起床時間がいつもと一緒なのに寝る時間が遅いと食欲がないとか、あまりいらぬということになっているなとすごく感じたので、この小学生の食欲がないというのが食べないというのが興味深いなと思いました。以上です。

座長

西村構成員、ありがとうございました。「早寝、早起き、朝ごはん」というのがありますけれどもやはり朝ごはんを食べるだけではなくて、1 日の生活リズムに関しても成長期から教えていく、今の子どもたちというのはSNS、スマホや携帯とか、塾に行っていたりだとか、いろいろな意味で寝る時間が遅くなっていると思います。夕食の摂取も遅くなったりして次の朝食摂取につながっていくこともあると思いますので、ここは「家庭において」という難しい点でもあります。朝食の重要性というのはあらゆる世代で教えていかないといけないと思いますので、

また食育の計画の中では入れていきたい項目ではあります。構成員の方々に一番感じていただきたいのは、成長期はもちろん朝食は摂取しないとイケないですが、20代30代の男性の方々、働き盛りの方々なのですが、食への関心も低い世代ではあります。こういった方々に朝食を食べることの重要性を教えるには、どのようにしたらいいかと。食べなくてもいいと思っていらっしゃる方が多い世代と思いますが、食べると1日の活動が健康になると思うんですよ。それをどういう風にIT時代、スマホ時代、情報時代、メディア時代にこういった風に教えていくべきかアドバイスいただければと思います。

原田構成員

私達、調理師という立場で、料理をする立場からすると、最近は話をすると、食べ物に関して関心のない子が多い。おいしい料理を作るとなると僕らがやることは、しっかり「だし」をとることから始めますが、「インスタントの食事がおいしい」とよく子どもたちが言う。インスタント食品はアミノ酸の多い、うま味が強いという言い方しますが、あれで流されているということがあると思う。僕は去年から、子どもたちを集めて食育ではないのですが、海に行って地引網を引いて、魚を子どもたちに採らせて、そこで料理をさせて食べさせる、命をいただくというのと、それと一緒に料理をした時に「しっかり食べなさいよ。噛んだらおいしいよ」と話しながら食べる。そうすると子供たちは作文を書いてくれるのですよ。「食べるものをしっかり食べないといけない」、「捨てるはいけない」、「大切なんだよ」「いただいているんだね」と子どもたちがしてくれるという、その部分をもっとやっていくことによって、20代30代のこのこれから先の人には、その経験を少しでもしてほしいと僕は思う。タケノコを堀りに15人くらい連れていったんですが、タケノコを採って、仕込みをする。「こんな大変なことをして僕はたけのこを食べられるんだね」「大事に食べないとイケない、嫌いだったんだけど」と話してくれる。だからそういう面で経験させるということが、今から食事にインスタントのもの、出来合いのものを食べるとういことではなくて、大事なものを食べる、噛むということをもう少し教えてというか、知ってもらうことではないかと僕は思います。

座長

ありがとうございます。成長期の世代に教えて、子どもたちが大人に教えるというのはおかしいですが、子どもたちのうちから味覚の教育も行いながら、インスタント食品の濃い味に慣れさせるのではなくて、朝食の摂取、食育という意味でしていかなければいけないなと思います。そのために、20代30代の男性達。ご意見いただきたいのが、女性なのですが、20代の学生の男子、男性たちと一緒に学習しておられるであろう馬場構成員。20代の男子大学生たちに食育の大事さ、重要性を教えるとしたらどういう方法を使ったらよいと思いますか。

馬場構成員

食育のイベントなど、今、食育に関心のない人たちがわざわざ、そこにはなかなか期待できないので、大学の中で行われている、大学祭とかそういうのに食育を交えたらよいのではと思います。北九州市立大学の私が所属している「食から学ぼうプロジェクト」というのがある

のですが、昨年度に大学生で減塩の料理を出店したんです。その時に自分の血圧を当てられたら無料で減塩のみそ汁をプレゼンとするというゲームみたいなのを交えて、自分の血圧を把握してもらったりとかしたので、そういうゲーム感覚で食育を楽しく学ぶ方法を考えたらいいなと思います。

座長

ありがとうございました。イベントなどでゲーム感覚で男子大学生に教えていくということが大事ですし、大学生でない場合の20代30代になりますと働いていらっしゃる企業だとかそういったところで、もしも食堂とかあってそこで栄養マネジメントといいますか、食に関して提供されているところであれば、少しでも興味を持っていただければと思うのですが、そうでない方々に対しても市としてどのように進めていくかを考えていかなければいけないと思います。やはり、メディアを使ったというのも大事になってくるのではないかなと思いますので、ITなど、そこを今後、第4次の国の計画にもございますように、使っていかなければいけないと思っています。

それでは、「評価D」と出ているところをございます、ご意見をいただきたいと思っておりますので、食塩に関してですが、8g未満で知っているものの割合としておまして、今回質問が変わっておりまして、前は「8gであることを知っていますか」という質問でしたが、下に※4にあります、「生活習慣病予防のための1日の食塩摂取量の目標量を知っていますか」という質問に替わっております。この目標量というのは、日本人の食事摂取基準にございます。その目標量はすごく低いんです。男性は成人で7.5g未満、女性は6.5g未満ととても低い、高血圧症の食塩が6g未満というところぐらいで、女性は6.5を守ってということをおしておりますので、厳しい評価になっております。そこで「D評価」と出ているのではないかなと思います。その値を知っている人は少ないと思っておりますし、あと、健康日本21で言われております「8g」が、日本全国で食塩は「8g未満がいいんだよ」というのは浸透しておりますので、これで悪い結果がでているのかなと。ただ、減塩に関しましては市としてしっかり取り組んでいますので、これに関してご意見を、「減塩をもっと進めていきたい」ということをご意見をいただきたいと思っておりますので、どなたかご意見いかがでしょうか。

長尾構成員

成人男性7.5g、女性6.5gというお話がありまして。私達が取組んでいる減塩については、先ほどもお話がありましたが、減塩ということをお考えると、塩味で食べるのではなく、うま味で食べるというようなことになっていかなければいけないと思っております。ふれあい昼食交流会のメニュー、健康料理普及講習会のメニューは塩分2gを基本に考えていただいているところなんです。これは北九州市の栄養士のレシピでもありますが、2.5gの時もありますが、1日3食で考えた時に6.5gだったら3で割ったら2という感じになっています。野菜をゆでる時に塩を入れないというのは当たり前の感じで、私達、食生活改善推進員は長く活動していると、それが身についてくるんですね。私がすごく感じているのは、食事の減塩ということも食習慣だなと思っております。その時その時の点で気を付けたものが繋がって行って、食習慣になるとそれが自然に身に付いていくというのがすごく大事なのではと思っています。

毎月、私達はふれあい昼食交流会とか減塩中心のメニューでしていますが、普段の生活はそうでないかもしれませんが、チェックポイントではありませんが、それをするときには気を付けることが何回も重なっていく中で食習慣が身についていくという風を感じています。例えば、講習会に参加したときだけお勉強した感じではないけれども、でもそういう機会が何回も何回も積み重なっていくと、自然に一人ひとりの方たちにも身についていくのではないかとそのように感じております。

座長

ありがとうございます。講習会に参加してくださるということ、まず大事で、続けてくださると身についていくということが大事なので、そこは、まずはそういった減塩活動等に取り組んでいるところに参加していただくということ、参加者数の増加。そこも市としてやっていかないと考えております。

時間がどんどん過ぎてまいりますので、次の「D評価」が出ております。「ゆっくりよく噛んで食べているものの割合」です。これに関しまして、噛んで食べる方の割合が減ったということも問題なのですが、調査結果にございます、「BMIが高い肥満者の割合」が17頁ですね。20歳代～60歳代の男性も女性もなんですが、令和4年度は肥満者の割合が増えております。噛むことと肥満の関係もよく言われておりますが、これには専門で申し訳ないのですが、藤崎構成員アドバイス、肥満者の関係などよろしく願いいたします。

藤崎構成員

加工食品が多くて栄養価も高いのですね。噛まなくても口に入れば高栄養に。かなり買うときにいいか悪いかわかりませんが、適量であればいいのでしょうか、噛まなくても栄養が摂れるというのが、今の現状だと思います。私は歯科医師ですのでお口の健康管理については、生まれた時から高齢者になるまで、北九州市ではいろいろな健診等を含めてお口の健康管理との啓発をしています。特に子供たちの虫歯の罹患率はこの北九州市では政令指定都市の中では一番虫歯の罹患率が高いんです。

それで、今、教育委員会の方が先頭に立って、歯科医師会がそれを後押しして、虫歯のない子どもたちを作っていこうということでフッ素洗口をいち早く、今取り入れていて、何年か後には虫歯の罹患率は減って行って、北九州市もお口の健康度が上がるのではないかと思います。先ほど言いましたように噛まなくてもいい物が沢山あるので、この辺が頭が痛いところ。特に自然の野菜とかお魚にしても肉にしても、噛んでしっかり食べるのが本当においしくて、体の維持管理にもすごくいいと思いますが、時代の流れなんでしょうか、加工食品が多いということで、そういう風に思っています。

座長

ありがとうございました。最近、歯科医師と管理栄養士の連携がよくとられているので、歯科医院に管理栄養士が就職するということが増えているというのをよく聞いております。食べること噛むことの重要性を一緒になって歯科医師と共に教えていくということを行ってくださ

っているようで、今、構成員がおっしゃってくださったように確かに噛まなくてもおいしく食べるということができていて、肥満の原因もやはり高エネルギー、高栄養価ですので肥満の方々も増えているのも現実だと思っています。噛むことを小さい頃から、子どもたちにフッ素塗布だけでなく、噛むことの重要性を教えていただけたらありがたいです。あと噛むということに関して北九州市 80 代の歯の 20 本の残存歯が 7 割を超えているが低栄養の高齢者が多いということに関しても問題だなど思っておりまして、食べる歯をお持ちなのに最近の子どもたちと一緒に、成人と一緒に噛んで食べないでよいような食事を高齢者も摂取しておられるのでしょうか。

藤崎構成員

そうですね。

座長

残っている歯を使っていただきながら、噛むことの重要性、そして噛まないと食べられない繊維物だとか野菜だとか果物だとか、もちろん肉魚もそうですけれど、柔らかいものだけでなくいろいろな食品を噛みながら味わっていただくということも食育の一つだと思いますので、そういったことを含めて考えていかなければいけないと思っております。ありがとうございます。

「食品購入時に栄養成分表示を参考にしている者の割合」ですが、低くございます。栄養成分表示というのを女性は知っている方多いのですが、これに関して構成員の方々、何かご意見、こういう現状でないの、ということなどアドバイスをいただけたら。やはり成分表とか見ないものですか。木下構成員よろしいでしょうか。

木下構成員

自分は料理をするので、結構買い物とかしますが、気にはしていなかったかなと思います。やはり、話は戻るのですが、20 代 30 代の食事について、高齢者に関してもそうですが、最近の 20 代 30 代については、結婚している割合が低くなっているというか、高齢者も孤立している多いのか。自分は料理しますが、男性の家庭の家事の分担とかやはり小さいうちから。自分はPTA協議会で役員をしていますが、小学校で家庭教育学級とかで年 2 回くらい親子で料理をする企画を入れるようにしていて、親子で料理をして、自分で作るのが一番おいしいからですね。ちょっとした工夫とかで、味とかも変わってくる。自分のことですが、フライパンを最近フッ素加工のフライパンから鉄製のフライパンに替えたのですが、それを変えただけでも料理の変化が大きくて子どもたちにも食べさせたら、「全然違うね」と。

小さい発見とか料理するのが楽しいということなど、小さい頃から体験することが大切で、20 代 30 代をターゲットに食育をもっていても遅いと思うので、小さいころから食に関する関心を高めるのが大切で、子ども達にとっては、「何を言う」か、「誰が言う」かということが重要なところがあって、「先生が言ったから絶対」、「〇〇が言ったから」という、何を言われたかというよりも誰が言ったかというのが、イメージが強かったりとか、子どもたちへの影響力

が強いと思うので、「何を言う」かも大事ですが、いろいろな「誰が言うか」というかとか、小さいころからの経験とかが今後の食育の推進につながっていくのかなと思いました。

座長

ありがとうございました。小さい頃からの経験が本当に大きいです。小さい頃からの食育まではいかなくても、いろいろな食事を食べて味覚を作ってしまうことになると、好き嫌いもそんなになく、いろいろなものを食べようとするということになりますので、小さいころが大切です。今、成長して成人されている方、高齢者の方々にも食育はぜひしていかなければいけませんので、とくに高齢期の方の低栄養を北九州市として、高齢者の多い北九州市ですから、低栄養の高齢者の割合を減らすことというのが大事ですので、そのためにも食事でもって少しでも健康で元気な高齢者を増やすということをやらないといけないなと思っています。

そのためには、先ほど木下構成員がおっしゃったように高齢独居の高齢者については、食べることが寂しいと食べることをしなくなったら、間食1食をで済ましたりとか本当に僅かな食事で済ましたりという傾向もありますので、そこに関しても交流会だけでなく、いろいろな人たちと一緒に食べるという機会を設けるということも市としても取り組んでいかなければいけないのかなと思います。そこに参加していただくことが大事なのですが、まずは(参加の機会を)作ってみて、そこに来ていただくということも市で取り組んで行かなければいけないと思っています。

それでは、時間が来ておりますので、議題3のお話をさせていただきます。議題3よろしいでしょうか。次期北九州市食育推進計画について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

議題③次期北九州市食育推進計画について

事務局 (資料を用いて説明)

座長

ありがとうございました。次期北九州市食育推進計画について事務局より説明がございましたが、ご意見ご質問はありませんでしょうか。

大丈夫でしょうか。それでは、終了時刻も迫っておりますので、第1回北九州市食育推進懇話会はこれで終了いたします。事務局には本日の意見を踏まえ、議題を整理し、計画の体系について、ご検討していただきたいと思います。ご意見について、構成員の方々も忌憚のないご意見を頂けたらと思います。最後に事務局より連絡事項があればお願いします。

事務局

ありがとうございます。本日、伝えられなかったご意見等がございましたら、第1回食育推進懇話会内容に関するご意見用紙をお配りしておりますので、ご記入の上、電子メール又はFAXにてご提出の方をお願いします。いただきましたご意見については、事務局にて検討を

させていただきます。今後の予定になりますが、先ほどのスケジュール案のとおり第 2 回目の開催を7月中旬に予定しております。詳細につきましては、また日程調整の上、お知らせをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日の議事録につきましては、冒頭でご説明させていただきましたとおり、公開させていただくことになります。後日事務局で作成をいたしまして、皆様にお渡しさせていただきますとともに、本市のホームページにも掲載させていただきますのでご了承をお願いします。その際ですが、議事録の確認につきましては、座長様の方をお願いをさせていただきますと思いますがよろしいでしょうか。

座長

はい、私に一任するということがありますが皆様よろしいでしょうか

構成員

はい。

座長

ありがとうございます。よろしいということで、事務局よろしくお願いいたします。

(7)閉会

事務局

ありがとうございます。それでは、他に連絡事項やご意見等が無ければ、これで本日の懇話会を閉会といたしますが、皆様よろしいでしょうか。では、これを持ちまして、第 1 回北九州市食育推進懇話会を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。